

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 181人

② 数学 181人

③ 理科 181人

#### 5 留意事項

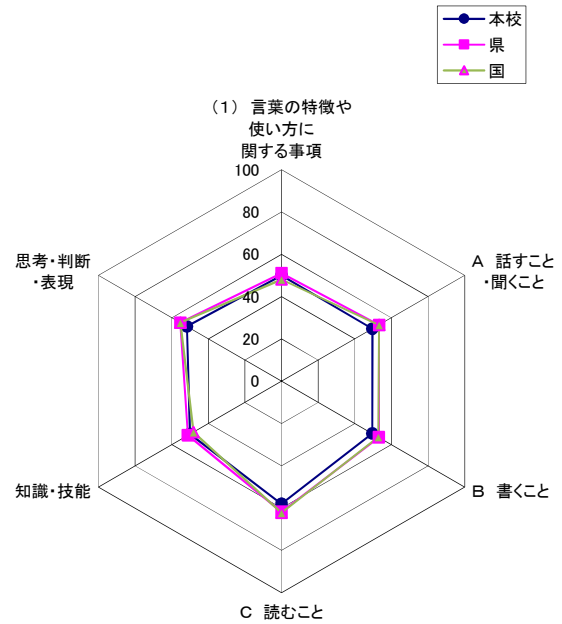
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮県立陽南中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、県と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	50.0	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	49.6	53.2	53.2
	B 書くこと	49.5	53.1	52.8
	C 読むこと	58.0	61.8	62.3
観点	知識・技能	50.0	51.1	48.1
	思考・判断・表現	51.7	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

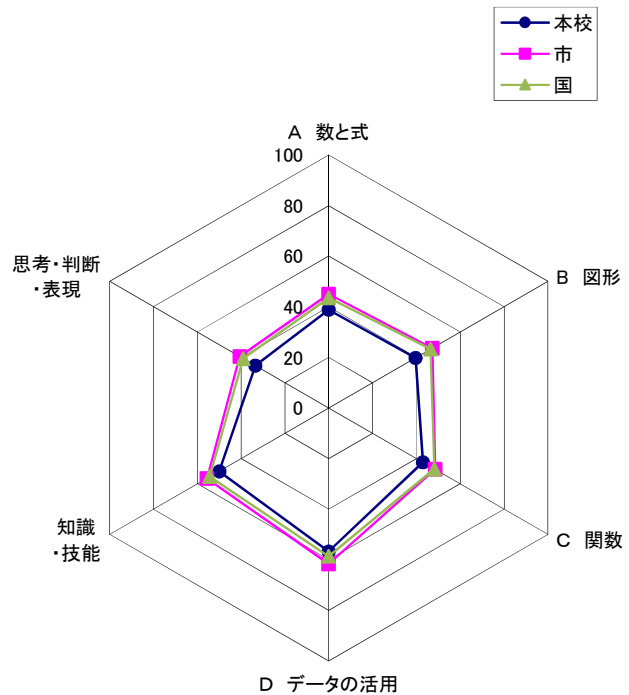
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国平均は上回っているが県の平均は下回っている。 ○事象や行為を表す語彙について理解しているかをみる問題の正答率は66.9%で、県の平均を3.9ポイント、全国の平均を5.9ポイント上回っている。 ●文脈に即して漢字を正しく使うことができるかという問題の正答率は33.1%で、県の平均を1.6ポイント、全国の平均を2.1ポイント下回っている。	・語句の意味を辞書で調べたり、短文を作ったりして、語句の正しい使い方を学習し、語感を磨き、語彙をさらに豊かにさせていきたい。 ・漢字の読み書きについてワークブック等を使って反復練習を行い、ミニテストを行うことで知識の定着を図る。
(2) 情報の扱いに関する事項	今年度は設問なし。	・今年度は設問がなかったが、自分で書く文章においても、意見と根拠を整理し、書く練習を行うとともに、日頃から、読書やニュース記事を読むことを意識させていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	今年度は設問なし。	・今年度は設問がなかったが、書写の授業を計画的に行うことで、書き方とともに、その字の特徴まで学習し、言語文化に触れさせる。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が、県平均・全国平均ともに下回っている。 ○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫できるかどうかを見る問題の正答率は23.6%で、全国平均を0.6ポイント上回っている。 ●相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝えるように表現を工夫することができる問題の正答率は72.4%で、県の平均を5.1ポイント、全国平均を5.5ポイント下回っている。	・ICT機器を使った授業を増やしていくことで器械操作の習熟を図り、自分の考えがうまく伝わるような工夫をさせる活動を継続する。 ・グループワークやペア活動を取り入れることで、「話し合い」をする場を多く設けていきたい。 ・授業以外の場でも、他者に話す機会を作り、普段の生活から様々な問題において、自分の意見を持たせるようにしていく。
B 書くこと	平均正答率が、全国・県の平均ともに下回っている。 ○読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る問題の正答率は、57.5%で、県の平均を0.9ポイント、全国平均を0.2ポイント上回っている。 ●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題の正答率は、27.6%で、県の平均を3.7ポイント、全国平均を2.5ポイント下回っている。	・テストを返却したあと、記述問題について、解説を丁寧にしながら、復習する時間を設けたい。 ・文章作成の授業において、表現技法の基礎・基本を具体例を提示しながら説明していきたい。 ・作文の授業では、個別に添削できる時間を作るよう工夫し、自分の考えやそれを支える根拠を限られた時間の中で、明確に書く練習を行う。
C 読むこと	平均正答率が、全国・県の平均ともに下回っている。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題の正答率は11.6%で、県の平均を5.5ポイント、全国平均を5.5ポイント下回っている。 ●表現の効果について、根拠を明確にして考えることgあできるかどうかをみる問題の正答率は77.9%で、県の平均を1.1ポイント、全国平均を2.1ポイント下回っている。	・様々な文章、作品に触れる機会を多く設けることで、表現の工夫の仕方や、構成、主旨や筆者の意見、根拠などを深く理解し、読む練習を行う。 ・作品を読んでから、自分の考えを文章で表現する練習を行う。

# 宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	38.8	45.0	43.5
	B 図形	39.6	47.2	46.5
	C 関数	43.0	48.5	48.2
	D データの活用	56.7	61.6	58.6
観点	知識・技能	50.0	55.6	54.4
	思考・判断・表現	33.5	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

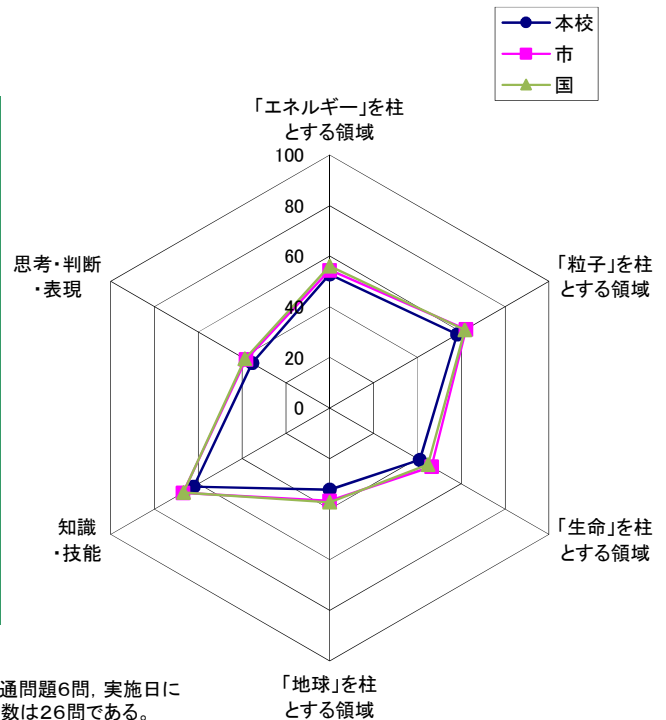
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率が市・国の平均正答率を下回っており、他の領域と比べて差が大きい。</p> <p>○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題では、62%の正答率である。</p> <p>●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では、無回答率が26%で課題が見られる。</p>	<p>・計算の仕方だけではなく、既習事項をおさえながら多様な計算方法を比較検討することを通して、より効率的に計算できるように支援する。</p> <p>・定着度に応じた計算練習として、タブレットやプリントによるドリル的な反復練習を引き続き取り入れていく。</p> <p>・数学的な事象を説明する場面では、文字式を使用することによって一般的に説明できることのおよさを伝える。数学的な表現を用いて理由を説明する力をつけるために、問題の意図と共に説明の手順を丁寧に指導していく。</p>
B 図形	<p>平均正答率が市・国の平均正答率を下回っており、他の領域と比べて差が大きい。</p> <p>○四角形AECFが平行四辺形となることを証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ問題では、正答率が58%である。</p> <p>●四角形AECFが平行四辺形となることを証明する問題では、無回答率が29%で課題が見られる。</p>	<p>・PCや具体物を活用したり、自分で作図したりすることを通して、実感をともなって問題をとらえることができるよう配慮する。</p> <p>・図形の性質や定理などをおさえる授業の際には、図と条件文を相互に対比させながら色別で表示するなど工夫し、式で表すことに慣れさせる。</p> <p>・証明問題では、書くことに対して苦手意識が強いため、論証の筋道を丁寧に指導する。特に、三段論法を含む場合は、空欄を埋める方式で論証の手順を示すなど工夫する。</p>
C 関数	<p>平均正答率が市・国の平均正答率を下回っている。</p> <p>○A駅からの走行距離と運賃を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ問題では、正答率が73%である。</p> <p>●A駅からある地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する問題では、無回答率が38%で課題が見られる。</p>	<p>・問題場面から「式」「表」「グラフ」を関連させてまとめることを繰り返して、理解を促す。</p> <p>・実生活に関わる題材を取り上げ、2つの数量の関係を表やグラフにより視覚化できることのおよさや関数の有用性を実感できるよう指導していく。</p> <p>・説明をする場面では、グラフから読み取ることができる情報や式が表す事柄に着目するよう促し、自分の考えで文章にしたり発表したりできるよう支援する。</p>
D データの活用	<p>平均正答率が市・国の平均正答率を下回っている。</p> <p>○必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が78%である。</p> <p>●相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、無回答率がほかの問題と比較すると7%と高く、課題が見られる。</p>	<p>・簡単な身近なデータの例を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を手作業で作成したり、代表値を求めたりすることを繰り返して行い、用語や基本的なデータの処理の仕方を身に付けられるよう支援する。</p> <p>・ヒストグラムや箱ひげ図から情報や特徴を読み取ったり説明したりする力を身に付けさせるために、データを比較する際には、代表値などの根拠となる数を明確にするよう指導する。</p>

# 宇都宮市立陽南中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.8	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	58.1	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	41.1	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	32.3	36.7	37.3
観点	知識・技能	62.1	67.0	66.8
	思考・判断・表現	35.5	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。

### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>正答率が栃木県・全国の正答率を下回っている。</p> <p>○情報を収集してまとめを行う活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての問題では、93.8%の正答率であり、栃木県・全国の正答率とほぼ同じである。</p> <p>●【考察】をより確かにするための追加実験として、条件を満たした実験を選択し、予想される結果を説明する問題では、正答率が7.7%と低く、栃木県・全国の正答率を下回っている。</p>	<p>・収集した資料や情報の信憑性について、知識としては身につけているので、実践力につなげられるよう指導していく。</p> <p>・実験を実施する際、その方法・手順を説明するだけでなく、どのような条件で実験を行えば課題解決につながるかを考える場面をとり入れていく。</p> <p>・既習事項に基づき、科学的根拠をもった予想を立て、自分の言葉で表現する時間を確保する。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>正答率が栃木県・全国の正答率を下回っているものが多かったが、上回っているものもあった。</p> <p>○科学的な探究を通してまとめられた発表を見て、自分なりの振り返りを記述する問題では、正答率が82.6%と高く、栃木県・全国の正答率を上回った。</p> <p>●身のまわりの事象から生じた疑問や問題を解決するための課題を記述する問題では、正答率37.9%と低く、栃木県・全国の正答率を下回った。</p>	<p>・本校では章末や単元末に学習の振り返りを行い、学習カードに記録している。その成果が振り返りを記述する問題における高い正答率につながったのだと考えられる。今後も継続して実施していく。</p> <p>・授業の始めに課題を明確にして、学習活動を進めているが、課題についても、生徒自身に考えさせる機会を設け、自分の言葉で表現する活動をとり入れていく。</p> <p>・元素記号などの基本的な知識の定着を図るために、授業内で小テストを行う。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>※公開問題の中で「生命」領域は1問のみ</p> <p>●水中の微生物に関する動画資料を見て、呼吸を行う生物を選択する問題では、正答率が24.6%と低く、栃木県・全国の正答率を下回った。また、無回答率も栃木県・全国を上回った。</p>	<p>・1年生の授業では、生物の「呼吸器官(えら・肺など)」に注目し、分類について考える展開があった。一方、2年生の授業では「呼吸」とは、酸素を取り込み栄養分と反応させてエネルギーを取り出す全ての生物が行う活動であると学習している。今回の問題では「微生物」が取り扱われ、既習事項の呼吸器官が見られない生物であった。さらに、例に挙げられた4種類の微生物は全て「生物」なので、4つ全てを選ぶという点も判断に迷ったポイントだとも考えられる。入試の過去問などを活用し、学年を超えて学習内能の関連付けを行っていく必要があると考える。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率が栃木県・全国の正答率を下回っているものが多かった。</p> <p>○地層の各層の性質から、水が染み出ている場所を判断する問題では、栃木県・全国の正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●他の領域の平均正答率より正答率が低い。</p>	<p>・他の領域に比べ、標本観察や考察が多い領域のため、興味関心自体が低い傾向にある。身近な素材を取り入れるなどして、生徒が主体的に学習に取り組める工夫をしていく。</p> <p>・実生活に関わる現象を取り上げ、時間的・空間的な見方の大切さやその重要性に気づかせる工夫を行う。</p>

## 宇都宮市立陽南中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」の問いに対し、当てはまると答えた割合87.7%（県81.8%、全国77.1%）となっており、また「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対する肯定的回答が97.5%（県97.4%、全国96.8%）、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の問いに対し、よくあると回答した生徒が50.3%（県48.5%全国46.4%）、ときどきあるもあわせた肯定的回答が93.4%（県92.5%全国91.6%）となっている。ここから、人権意識や社会性の高まりや他を思う気持ちの成長がみられる。

○「土・日など学校が休みの日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしていますか」の問いに対し、3時間以上と回答した生徒が14.9%（県14.6%全国13.8%）となっており、家庭での学習にじっくりと取り組んでいる生徒が多いことがわかる。つまり家庭学習時間の増加が、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の問いに肯定的回答が81.0%（県78.9%全国78.9%）高くなったことにつながってきていることがわかる。生徒に自分で考え工夫する力が身につき始めていることがうかがわれる。

○「総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いに対し肯定的回答が89.2%（県85.8%全国79.5%）で全国より10ポイント近く高く、本校の重点課題であるSDGSカリキュラムを進めながら、統一した学び方が進められていることがうかがわれる。

●「読書は好きですか」の問いに対し、肯定的回答が54.9%（県64.9%全国61.6%）と県から10ポイント以上離れており、より一層読書の推進を進めていく必要がある。読書活動により、学習の基礎基本が養われ全体としての学力向上につながっていく。

●「1・2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのIC機器を、どの程度使用しましたか」の問いに対し、肯定的回答が19.5%（県45.0%全国53.2%）と全国より34ポイント近く低く、今以上に授業でのICT機器の活用が求められる。低い理由としてはより授業を深めていくための活用スキルの低さがあげられる。授業の場面場面での有効な活用方法の検討や情報モラルを高めていくことが至急の課題である。これは教師・生徒共に求められているものである。

## 宇都宮市立陽南中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①学力向上 ②見通しをもつ力の育成 ③SDGSカリキュラムマネジメント ④誰一人取り残さないウェルビーイングの深化	・「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業の展開・改善。 ・家庭学習の充実に向けたタブレット端末の活用。 ・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用し、系統ある継続したキャリア教育の取り組みに努める。	・家庭学習は土日の3時間以上の学習時間が県・全国を上回っており取り組みの成果が表れている。 ・「授業の内容がよくわかる」の肯定的回答が国語75.9% 数学55.4%理科59.4%と県・全国を下回っており、より一層のわかる授業の工夫が求められる。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答が60%で県・全国を下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ICT機器の授業での活用が少ない。 ・授業での学びを普段の生活の中でどのように活用させるか。 ・学びをキャリア教育とどのように結びつけていくか。	・授業でのICT機器の効果的活用について考える。 ・単元と普段の生活との結びつきについて考えさせる。 ・キャリア教育の充実。	・ドリル学習・調べ学習・意見交換等様々な場面でICT活用を各教科で増やしていく。 ・授業の中で単元における身近な生活との接点を考えさせたり示したりする活動を取り入れる。 ・各授業の中でキャリア教育の視点を取り入れると同時に活用している場面を生徒に可視化していく。